平成26年度　事務事業評価シート

事務事業名	中学校副読本支給			所管	教育委員会 指導課

事務事業の概要

行政計画	なし	事業NO.		計画事業名	
長期総合計画体系	[基本目標]				
	[小　　柱]				
	[施　　策]				
根拠法令等	その他	〔法令等名〕	案件ごとに起案		
事業対象	区立中学校生徒				
事業目的	区立中学校へ道徳の副読本を配布し、教科指導の充実及び当該教科における生徒の資質の向上を図る。				
事業内容	各中学校で採択した道徳副読本を使用した授業を行う。 （配布対象学年）　全学年				
委託の有無	なし	委託内容			
補助金の有無	なし				

事業の開始・終了年度	
[事業開始]	年度
[終了予定]	－　年度

事務事業の実績

種　別	指標の名称	(単位)	目標値（２７年度）	２３年度	２４年度	２５年度
活動指標	副読本の種類	（種類）	4	4	4	4
成果指標	配布数	（冊）	2,445	2,561	2,741	2,616

		２３年度	２４年度	２５年度
決算額　(単位：千円)		1,441	1,609	1,586
事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト（人件費など）	450	417	426
	物にかかるコスト（物件費・維持補修費）	1,441	1,610	1,586
	その他のコスト（扶助費・補助費など）	0	0	0
	総経費	1,891	2,027	2,012
財源項目 (単位：千円)	受益者負担額（使用料・手数料・負担金など）	0	0	0
	その他特定財源（国や都の支出金・財産収入など）	0	0	0
	一般財源（区負担額）	1,891	2,027	2,012

前年度から改善した事項	
	学校のニーズに合わせた副読本の選定及び定期的な改定を行い、レベルの維持に努めた。

評価の視点

	評価	評価の理由
必要性	3	教科書の配布が無い道徳教科において、主教材として常時活用されている。必要性の高い事業である。
効率性	3	指導要領に合わせた改訂の量により若干のコスト変動がみられるが、それ以外については策定作業から各校への配布に至るまで、費用は最小限に抑えられている。
手段の適切性	3	費用を抑制するために当初予備分については必要最低限とし、児童転入や予測と実測生徒数の誤差による不足には追加発注で対応している。補充に少し時間がかかるが、授業の実施に問題は発生していない。余分な発注を抑える現在の手段は適切であると認められる。
目的達成度	4	全生徒に対しての配布を予算の範囲内で達成することができている。

[評価の理由]（区民生活への影響を十分考慮すること）

教科書の配布が無い道徳教科において、主教材として常時活用されている。引き続き支給事業を実施していく必要がある。

評価結果	
今後の方向性	維持
	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了